

大会名称: 第23回FIBA ASIA U-18男子バスケットボール選手権大会

開催場所: Al Gharafa Sports Club (カタール・ドーハ)

試合区分: No. 103 男子 予選ラウンド・グループD コミッショナー: ABCARIAN Vreje

期 日: 2014(H26)年8月19日(火)

主審: ABIRACHED Walid Marcel

開始時間: 13:00

副審: ALTARAWNEH Mohammed Ismail, CHANG Yee Chuan

終了時間: 14:40

日本 (通算1勝0敗)	○ 81	19 -1st- 18 22 -2nd- 8 15 -3rd- 20 25 -4th- 16 -OT1- -OT2- -OT3-	● 62	イラク (通算0勝1敗)
----------------	---------	--	---------	-----------------

第23回FIBA ASIA U-18男子バスケットボール選手権大会が開幕。大会初日、日本はイラクとの対戦は、全員バスケットで快勝。

第1ピリオド

ディフェンスは、日本マンツーマン、イラクは3-2ゾーンでスタート。日本は立ち上がりは硬さがみられたが、相手の動きを見ながら落ち着いてパスを回し、#8内田が連続3Pを決めて6-0と良いスタートをきる。イラクは、#7ALSAADIがドライブインで返すが単発で終わる。ところがその後、#4津山が3Pを決め9-2となったところで日本の得点が止まってしまう。イラクは#7ALSAADI、#12AL-AMEEDEEがドライブインからのゴール下で連続で得点し、11-11の同点となる。さらにイラクは残り4分30秒、#6AL-ZUBAIDIのジャンプシュート逆転し、しばらくゲームはイラクリードで進む。しかし日本は、途中出場の#6本村が連続で3Pを決め返し19-18の1点リードで終了。

第2ピリオド

日本はディフェンスローテーションを徹底し相手のターンオーバーを誘い、#10山梨、#7富田、#6本村の連続得点で28-22とリードを広げると、たまたまイラクはタイムアウトをとる。日本はディフェンスのポジションを再確認し、タイムアウト後も日本の流れは変わらずイラクに得点を許さない。日本は、#6本村、#8内田が得点を重ね、差を少しずつ広げる。#9青木のシュートのこぼれたボールを#13渡辺が飛び込んでタップシュートを決め、35-23と12点のリードとなる。その後も得点を重ねた日本が41-26で前半リードし終了する。

第3ピリオド

イラクはゾーンの体系を1-3-1に変えてスタートするが、日本はきちんと対応する。オフェンスでは#8内田の3Pや、相手のターンオーバーから#4津山が連続得点し、48-27とリードをこのゲーム最大の21点に広げる。しかし、イラクは#4AL-FAHHAMのブレイクからのレイアップを機に、#7ALSAADIを中心に連続3本の3Pなどで残り3分50-42と8点差まで詰め寄る。しかし、日本は慌てることな#5角野がファールで得たフリースローをきっちり決め、連続得点。さらに#4津山のスティールから#10井手がファーストブレイクで得点し、それ以上差を縮めさせない。イラク#12AL-AMEEDEEや#9AL-HASHIMIが返すも56-46と日本10点リードで終了する。

第4ピリオド

このピリオドは日本#15三上が大活躍する。10点差に詰め寄ったイラクに対し、開始早々3Pと2Pを連続で決め、日本に流れを引き寄せる。イラクも#12AL-AMEEDEEリバウンドからシュートや#4AL-FAHHAMのドライブインから#13AL-ZUHAIRIのゴール下での合わせのシュートでついていく。残り3分半、日本は#4津山がスティールからレイアップを決め72-59となったところから再び#15三上が活躍、3連続3Pを決める。イラクも#4AL-FAHHAMが3Pを決めるが及ばず、81-62で初戦を日本が快勝した。

次戦、8月20日(水) 13:00(現地時間)より、予選ラウンド(グループD)第2戦をホンコン・チャイナと対戦する。

担当: 公益財団法人日本バスケットボール協会 古田厚司